

## 2020年度（公財）北海道サッカー協会 審判トレセン道東ブロックアカデミー①報告

報告者: 土田 浩貴

- ・日 時 令和2年10月24日(土)8時30分～13時00分
- ・会 場 帯広農業高校
- ・運 営 土田浩貴
- ・参加者 高橋 陽斗(帯広三条1年) 館野 結人(帯広工業2年) 萱森 巧成(帯広工業1年)  
濱道 恒太郎(帯広工業1年) 森 琉聖(帯広工業1年)
- ・研修内容 1. 実技(2種:十勝地区FAU-18後期)



### ・参加者感想

- 参加してみて、他のユースで審判をやっている方々に関わることが出来たこと、また、高校サッカーでの主審をやらせて頂くというとても貴重な体験が出来ました。  
今回は主審としてゲームコントロールを上手くすることが出来なく、まだまだ経験不足で覚えなれないといけなことが沢山あるということを自覚しました。次に主審をやることがあれば、もっとハッキリと笛を鳴らし、分かりやすくジャッジをし、ゲームコントロールをもっと上手くやりたいと思いました。

- ・日 時 令和2年10月25日(日)8時30分～13時00分
- ・会 場 幕別札内川河川敷グラウンド
- ・運 営 土田浩貴、石垣正行
- ・参加者 館野 結人(帯広工業2年) 萱森 巧成(帯広工業1年)  
濱道 恒太郎(帯広工業1年) 森 琉聖(帯広工業1年)
- ・研修内容 1. 実技(2種:十勝地区FAU-18後期)



## ・参加者感想

- 対角線式審判法を意識して良い距離感で動けたので良かったです。笛の音が小さくてプレイヤーに伝わらなかったもので、音で危険度などがわかるように練習したいです。スローインの判定がまだあやふやな所があったのでしっかりしたいです。ディフェンスが遠くにボールを蹴る時やゴールキック、オフサイドの再開時にボールの落下地点を先に予測してポジションをとることを学びました。
- 今回の研修会で主審のすべき事やどう試合をコントロールしたら良いか等たくさんの事を学べた。特に「ファーストファウルの基準作り」と「細かいステップワーク」だ。ファーストファウルはチームのプレー強度などを素早く把握して基準を示すことで、その後に自信を持って冷静にファウルを判定する意識を持てるようになった。ステップワークについてはサイドからボールを持ち込んでえぐるような場面は、レフェリーサイドに入り、ボールと争点をとらえることができるポジションをとることの重要性を学んだ。

## ・まとめ

10月25日幕別札内川河川グランドに於いてレフェリーアカデミー道東研修会に参加しました。当日は清々しい秋晴れの中、十勝地区FAリーグ戦の生きた実践の中で研修会が出来ました。

主審を担当した3人(怪我でビデオ記録係に回った1名)は選手もこなしながら審判活動も積極的に取り組む姿勢も大変素晴らしく、私としても良い刺激を頂きました。研修生は、「なぜ? どうして?」と疑問に思った事をすぐ土田インストラクターに聞くのではなく、「こう思ったので、こう行動した」と自分の考えの根拠を説明してからインストラクターに助言や確認をするなど、自分の意志を表現していました。気付いた点のヒントを提示し、若い特権を生かし素早い吸収力で修正点を自分の物にしようと必死な気持ちかが伝わってきました。今回の研修で4人が共通していたものは「選手を怪我から守るレフェリーを目指す」でした。この様に選手目線で自ら考えて行動を行えば必ずステップアップ、スキルアップは可能ですので、引き続き頑張ってくださいと思います。

レフェリーアカデミー道東オホーツク担当 石垣 正行

今回は2種の試合を利用して実技を行いました。昨年までは4種、3種と比較的ゆったりとした試合展開の中でポジショニングなどを確認していましたが、今年は2種の試合とあって最初はスピード感に戸惑いがありました。しかし、動いていくうちに上手く適応し、自信を持ってレフェリングをしてくれました。試合終了後の振り返りではそれぞれ自分の改善点を的確に把握し、次に向けてのビジョンを押さえていた部分は驚きました。今後も向上心を持ちながら練習に励んで欲しいと思います。最後に今回の研修会に協力して頂きました帯広農業高校、幕別清陵高校の皆様、誠にありがとうございました。

レフェリーアカデミー道東十勝担当 土田 浩貴